

媒体名	福島民報	版/面	第 47059 号/2 面	掲載日	2025 年 8 月 26 日(火)
-----	------	-----	---------------	-----	--------------------

神田外語大学生、復興新聞作りへ
双葉郡の施設取材



東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の発生から15年に向けて震災復興新聞を作り、国内外に「福島は今」を発信する神田外語大(千葉市)の3年生10人は25日、双葉郡の5施設を訪ねて取材活動に入った。

一行はグローバル・リベラルアーツ学部の柴田真一特任教授のゼミ生。東日本大震災・原子力災害伝承館と双葉産業交流センター、

中間貯蔵事業情報センターで除染土壌について学ぶ神田外語大の学生

震災遺構「請戸小」、JR双葉駅、中間貯蔵事業情報センターを訪問した。

中間貯蔵事業情報センター(大熊町)では、中間貯蔵施設に保管中の除染土壌について、2045年までに県外で最終処分すると法律に定められていることなどの説明を受けた。期限まで約20年となる中、再生利

用や最終処分への理解が進んでいない現状に理解を深めた。

ゼミ長の関口椋久さん(20)は「実際に福島に来て話を聞いたことにより、『自分ごと』になった。一筆に取材して新聞を作りたい」と語った。26日は3班に分かれて福島水素エネルギー研究フィールド(浪江町)、福島国際研究機構(FRI、エフレイ)など13施設を訪ねる。福島民報社の社員が取材や新聞製作をサポートする。